

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公開番号】特開2015-113666(P2015-113666A)

【公開日】平成27年6月22日 (2015.6.22)

【年通号数】公開・登録公報2015-040

【出願番号】特願2013-257966(P2013-257966)

【国際特許分類】

E 0 6 B 1/60 (2006.01)

E 0 6 B 1/56 (2006.01)

E 0 6 B 1/36 (2006.01)

【F I】

E 0 6 B 1/60

E 0 6 B 1/56 B

E 0 6 B 1/36 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月13日 (2016.12.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

枠柱の表面に固定される平面状基板部に複数の取付け用孔を穿設し、該基板部の前部に切欠き部と舌状の切起し部を形成し、該切起し部に取付け用孔を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、

上記取付け用具を弾性をもつ金属板から形成し、

上記基板部の前縁部から裏側後方へ屈曲して続くとともに、上記窓用内装化粧枠の外側面と枠柱内側面との間の間隙の寸法より大きな前後方向寸法を有する傾斜前板部を設け、

上記切り起し部又は上記基板部の前縁部を窓用内装化粧枠の外側面に当接させるとともに、

上記傾斜前板部の後部を枠柱の内側面に当接させて、上記傾斜前板部の弾性によって上記基板部を上記枠柱の表面に沿った状態で仮止めできるように構成した、窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 2】

薄板製で、平面状基板部 1 に複数の取付け用丸孔 3 を穿設し、該基板部 1 の前部に切欠き部 4 と舌状の切起し部 5 を形成し、該切起し部 5 にも取付け用丸孔 6 を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、

上記取付け用具 A を弾性をもつ金属板製として、上記基板部 1 の前縁部 7 よりも前方へ突出する如く掛止用突起 8 を形成し、

該基板部 1 の前縁部 7 から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部 2 を形成して、該傾斜前板部 2 を、その後端部 9 が作業時に枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能な長さ n をもつものとし、

かつ該後端部 9 を、枠柱 10 の内側面 11 へ当接して基板部 1 を斜め下方から支承する支承用部 9a としたことを特徴とする、窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 3】

枠柱の表面に固定される平面状基板部に複数の取付け用孔を穿設し、該基板部の前部

に切欠き部と舌状の切起し部を形成し、該切起し部に取付け用孔を穿設した窓用内装化粧
枠の取付け用具において、

上記取付け用具を弾性をもつ金属板から形成し、

上記基板部の前縁部から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部と、

上記傾斜前板部から前方へ突出する如く設けた腕片とを設け、

上記腕片前端部と上記傾斜前板部の後端部との間の前後方向寸法を、上記窓用内装化粧
枠の外側面と枠柱内側面との間の間隙の寸法より大きく設定し、

上記腕片を上記窓用内装化粧枠の外側面に当接させるとともに、上記傾斜前板部を枠柱
の内側面に当接させて、上記腕片及び上記傾斜前板部の弾性によって上記基板部を上記枠
柱の表面に沿った状態で仮止めできるように構成した、窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 4】

薄板製で、平面状基板部 1 に複数個の取付け用丸孔 3 を穿設し、該基板部 1 の前部に切
欠き部 4 と舌状の切起し部 5 を形成し、該切起し部 5 にも取付け用丸孔 6 を穿設した窓用
内装化粧枠の取付け用具において、

上記取付け用具 A を弾性をもつ金属板製として、上記基板部 1 の前縁部 7 よりも前方へ
突出する如く掛止用突起 8 を形成し、

該基板部 1 の前縁部 7 から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部 2 を形成して、該傾斜前
板部 2 を、その後端部 9 が作業時に枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能な長さ n をもつもの
とすると共に、該後端部 9 を枠柱 10 の内側面 11 へ当接して基板部 1 を斜め下方から支
承する支承用部 9a とし

かつ、該傾斜前板部 2 の両側部寄りから、上記掛止用突起 8 と同様に前方へ突出する如
く腕片 20 を設けて、該腕片 20 を前・後方向へのスイング可能に弾性を持たせて形成し
たことを特徴とする、窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 5】

上記切り起し部を、上記傾斜前板部の表面から斜め上前方に突出するように形成し、

上記切り起し部を、ねじ釘を用いて上記窓用内装化粧枠の外側面に固定することにより
、上記切り起し部の上縁部が、上記基板部の表面以下の位置に沈み込むように構成した、
請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載した窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 6】

掛止用突起 8 を、基板部 1 の前縁部 7 から前方へ突出するように形成した、請求項 1 か
ら請求項 5 のいずれか 1 項に記載の窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 7】

掛止用突起 8 を、傾斜前板部 2 の前縁寄り両側縁から基板部 1 の前縁部 7 よりも前方へ
突出するように形成した、請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載の窓用内装化粧
枠の取付け用具。

【請求項 8】

掛止用突起 8 を、基板部 1 の前縁部 7 から複数個を前方へ突出するように形成した、請
求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 9】

掛止用突起 8 を、傾斜前板部 2 の前縁寄り両側縁を前方へ切り起こして、基板部 1 の前
縁部 7 よりも前方へ突出するように形成した、請求項 1 から請求項 8 のいずれか 1 項に記
載の窓用内装化粧枠の取付け用具。

【請求項 10】

傾斜前板部 2 の後端部 9 を小さな折り返し縁に形成して、作業時に枠柱 10 の内側面 1
1 へ当接可能な支承用部 9a とした、請求項 1 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の窓用
内装化粧枠の取付け用具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】窓用内装化粧枠の取付け用具

【技術分野】

【0001】

本発明は、壁の窓用開口部の枠柱に、窓枠サッシの付く内装化粧枠を、隙間を調節しながら取付け固定する用具に係るものであり、作業性の向上特に仮止め作業の効率化を図れるようにするものである。

【背景技術】

【0002】

例えば木造建物の壁に窓を設ける場合には、壁に形成した開口部の枠柱内に、窓枠サッシの付く内装化粧枠を嵌入して取付け固定するが、その取付け固定のためにこの窓用内装化粧枠の取付け用具が必要となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特許第26711933号公報 これは、極薄の金属板からなる基板部の前縁に屈曲した前板部を形成して、該基板部に前後方向への仮止め兼位置調節用の長孔と前後方向へ2個並んだ取付け用丸孔を形成すると共に、基板部の先端からU字状の切欠き部を形成し、かつ上記前板部に舌状の切起し部を形成して、そこにも取付け用丸孔を形成したものである。

【0004】

この使用状態は、この止め用具の前板部を、枠柱の内側面と内装化粧枠の外側面との隙間に嵌め入れた状態で、基板部裏面を枠柱の内面に当接させて、仮止め兼位置調節用の長孔から釘を打ち込んで仮止めしておく。次に、前板部の取付け用丸孔からネジ釘を斜め状に化粧枠の外側面へねじ込んで固定し、これで基板部が枠柱側へ引き寄せられて位置が決まる。この状態で基板部の2個の取付け用丸孔から釘を枠柱に打ち込むと共に、上記仮止め用長孔に仮打ちしてあった釘を打ち込むことで、内装化粧板が枠柱に固定される。

【0005】

【特許文献2】意匠登録第1113933号公報 これは、後記特許文献3に関して先行意匠として引用されたものである。その形状、特許文献1に記載のものとほぼ同じであり、極薄の金属板からなる基板部の前縁に屈曲した前板部を形成して、該基板部に前後方向への仮止め兼位置調節用の長孔と前後方向へ3個並んだ取付け用丸孔を形成すると共に、基板部の先端からU字状の切欠き部を形成し、かつ上記前板部に舌状の切起し部を形成して、そこに取付け用丸孔を形成したものである。そしてこの使用状態も、特許文献1に記載のものとほぼ同じである。

【0006】

【特許文献3】意匠登録第1216554号公報 これは、創作者が上記特許文献1に記載の発明者と同一人であり、かつ出願人は本件特許出願と同一人である。その形状は、極薄の金属板からなり、基板部の前縁に屈曲した前板部を有し、該基板部に前後方向への仮止め兼位置調節用の長孔と前後方向へ3個並んだ取付け用丸孔を有すると共に、基板部の先端からU字状の切欠き部を有し、かつ上記前板部に舌状の切起し部を有してそこにも取付け用丸孔を形成してあることは、上記特許文献1や2に記載のものと類似する。

【0007】

しかし、意匠的には正面図や平面図から豚をイメージするような形状になっており（上記公報の正面図や平面図を参照）、また基板部の前端両側に、取付け時に最初に内装化粧枠の外側面へ突き刺せるように、前方へ向けて角状の突起を形成したところに特徴があるものである。

【0008】

その使用状態は、上記特許文献 1 や特許文献 2 に記載のものとほぼ共通する。この止め用具の前板部を、枠柱の内側面と内装化粧枠の外側面との隙間に嵌め入れた状態で、基板部裏面を枠柱の内面に当接させて、仮止め兼位置調節用の長孔から釘を仮打ちして仮止める。

【0009】

次に、前板部の取付け用丸孔からネジ釘を斜め状に化粧枠の外側面へねじ込んで固定するが、これで上記角状の突起が内装化粧枠の外側面に突き刺さることになり、取付け位置が固定される。この状態で基板部の 3 個の取付け用丸孔から釘を打ち込むと共に、上記仮止め兼位置調節用の長孔で仮打ちしてネジ釘も本打ちすることで、内装化粧枠を枠柱に強固に取付け固定されるようになっている。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0010】

従来のこの種の取付け用具はいずれのものも、壁の開口部の上・下・左・右の枠柱に内装化粧枠を取付け固定する作業では、隙間が上・下・左・右で均等になるように調節しながら、例えば 10 か所に取付け用具を取付ける作業を行う。その作業中に位置ズレや落下が生じないように、上記の如くまず仮止め兼位置調節用の長孔から釘を仮打ちして枠柱に仮止めしておく。これで位置が決まるので、前板部上部の丸孔から内装化粧板の外側面へネジ釘を螺装して固定し、その後に各丸孔に釘を打ち込むという作業を、全ての取付け用具に行う必要があり、手間と時間を要した。

【0011】

本発明は、窓用内装化粧枠の取付け用具に関し、上記問題点の解決を図ろうとして、種々検討の結果得られたものである。本発明の目的は、基板部に仮止め位置調節用の長孔を形成して、そこに釘を仮打ちしておく必要もなく、容易・迅速に仮止め作業を行えて、窓用内装化粧枠の取付け作業の効率化を図れる、窓用内装化粧枠の取付け用具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0012】

本発明は、枠柱の表面に固定される平面状基板部に複数の取付け用孔を穿設し、該基板部の前部に切欠き部と舌状の切起し部を形成し、該切起し部に取付け用孔を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、上記取付け用具を弾性をもつ金属板から形成し、上記基板部の前縁部から裏側後方へ屈曲して続くとともに、上記窓用内装化粧枠の外側面と枠柱内側面との間の隙間の寸法より大きな前後方向寸法を有する傾斜前板部を設け、上記切起し部又は上記基板部の前縁部を窓用内装化粧枠の外側面に当接させるとともに、上記傾斜前板部の後部を枠柱の内側面に当接させて、上記傾斜前板部の弾性によって上記基板部を上記枠柱の表面に沿った状態で仮止めできるように構成した、窓用内装化粧枠の取付け用具に係るものである。

【0013】

1) 本考案に係る窓用内装化粧枠の取付け用具 A の第 1 は

薄板製で、平面状基板部 1 に複数の取付け用丸孔 3 を穿設し、該基板部 1 の前部に切欠き部 4 と舌状の切起し部 5 を形成し、該切起し部 5 にも取付け用丸孔 6 を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、

上記取付け用具 A を弾性をもつ金属板製として、上記基板部 1 の前縁部 7 よりも少し前方へ突出する如く掛止用突起 8 を形成し、

該基板部 1 の前縁部 7 から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部 2 を形成して、該傾斜前板部 2 を、その後端部 9 が作業時に枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能な長さ n をもつものとし、かつ該後端部 9 を、枠柱 10 の内側面 11 へ当接して基板部 1 を斜め下方から支承する支承用部 9a と することができる。 (例えば図 1, 図 2, 図 3 参照)。

【0014】

また、本願発明は、枠柱の表面に固定される平面状基板部に複数の取付け用孔を穿設

し、該基板部の前部に切欠き部と舌状の切起し部を形成し、該切起し部に取付け用孔を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、上記取付け用具を弾性をもつ金属板から形成し、上記基板部の前縁部から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部と、上記傾斜前板部から前方へ突出する如く設けた腕片とを設け、上記腕片前端部と上記傾斜前板部の後端部との間の前後方向寸法を、上記窓用内装化粧枠の外側面と枠柱内側面との間の間隙の寸法より大きく設定し、上記腕片を上記窓用内装化粧枠の外側面に当接させるとともに、上記傾斜前板部を枠柱の内側面に当接させて、上記腕片及び上記傾斜前板部の弾性によって上記基板部を上記枠柱の表面に沿った状態で仮止めできるように構成した、窓用内装化粧枠の取付け用具に係るものである。

【0015】

2) 本考案に係る窓用内装化粧枠の取付け用具Aの第2は

薄板製で、平面状基板部1に複数個の取付け用丸孔3を穿設し、該基板部1の前部に切欠き部4と舌状の切起し部5を形成し、該切起し部5にも取付け用丸孔6を穿設した窓用内装化粧枠の取付け用具において、

上記取付け用具Aを弾性をもつ金属板製として、上記基板部1の前縁部7よりも少し前方へ突出する如く掛止用突起8を形成し、

該基板部1の前縁部7から裏側後方へ屈曲して続く傾斜前板部2を形成して、該傾斜前板部2を、その後端部9が作業時に枠柱10の内側面11へ当接可能な長さnをもつものとし、該後端部9を、枠柱10の内側面11へ当接して基板部1を斜め下方から支承する支承用部9aとし、

かつ、該傾斜前板部2の両側部寄りから、上記掛止用突起8と同様に前方へ突出する腕片20を形成し、前・後方向へのスイング可能に弾性を持たせて構成することができる（例えば図4参照）。

【0016】

上記構成において、該取付け用具Aの材質は、外力を加えた際に元へ戻ろうとする復元力を有するようなものとし、例えばステンレスやバネ鋼板その他の鋼板製とすることが望ましい。

【0017】

上記傾斜前板部2が傾斜した角度（本発明では平面状板材から屈曲した角度を傾斜角 α という）は、基板部1の前縁部7よりも後方へ通常は20度位の傾斜角 α となるように設定しておけばよいが、それに限るものではない。該傾斜前板部2の後端部9は、枠柱10の内側面11へ当接すると共に基板部1を斜め下方から支承するものである。

【0018】

また上記掛止用突起8は、取付け作業をした際に内装化粧枠12の外側面へ食い込み得るものであり、かつ基板部1または傾斜前板部2に、基板部1の前縁部7よりも少し前方へ突出するように形成してある（例えば図1、図2、図3、図4参照）。即ち該突起8は、基板部1の前縁部7の両側寄りに一対を形成してもよい（例えば図1参照）、または傾斜前板部2の前縁寄り両側縁から前方へ突出形成してもよい（例えば図2参照）。一対ではなく複数対を形成してもよい（例えば図3参照）、図示は省略するが傾斜前板部2の上部寄り位置を前方へ切り起こして突起8を形成してもよい。

【0019】

また、図1に示すように、上記切り起し部を、上記傾斜前板部の表面から斜め上前方に突出するように形成し、図12に示すように、上記切り起し部を、ねじ釘を用いて上記窓用内装化粧枠の外側面に固定することにより、上記切り起し部の上縁部が、上記基板部の表面以下の位置に沈み込むように構成することができる。

【0020】

さらに、図3に示すように、上記切り起し部の前端部の前後方向位置を、上記掛止用突起の前端部の前後方向位置と同じか、あるいは、前後方向後方に位置するように構成するのが望ましい。

【0021】

上記腕片 20 は、前・後方向へのスイング可能に弾性を持たせて形成したとは、枠柱 10 の内側面 11 と内装化粧枠 12 の外側面 13 との間隙 k の大小に対応して、その部分が前・後方向へスイングさせることが可能な弾性を持たせて形成したものである（例えば図 4 及び図 16、図 17、図 18 参照）。

【0022】

上記腕片 20 の前後方向前端部を、上記掛止用突起 8 及び上記切り起し部 5 の先端部の前後方向位置より前方に位置するように構成するのが望ましい。

【発明の効果】

【0023】

a) 本取付け用具 A によれば、その傾斜前板部 2 を、窓枠用開口部の枠柱 10 と内装化粧枠 12 の間隙 k に嵌め入れた後は、枠柱 10 上で浮き上がった基板部 1 の一部を押し込むだけのワンタッチ作業でよい。従来の仮止め作業は必要なくなり、内装化粧枠の取付け作業における仮止め作業を行うことができる。

【0024】

即ち、壁に設けた窓用開口部に、窓枠サッシの付く内装化粧枠を取付け固定する場合に、従来の作業は、従来は基板部の長孔に釘を装入して一旦仮止めしておき、その後に位置を調節して本固定するが、仮止め作業中に取付け用具が脱落したり、仮止めした位置が正しくなかったりすると、取付け金具は多数個を使うものだけに、この作業にはかなりの手間と時間を要して、作業効率が悪かった。

【0025】

これに対して本窓用内装化粧枠取付け用具 A では、まず、上記枠柱 10 の内側面 11 と内装化粧枠 12 の外側面 13 との間隙 k 内へ、基板部 1 の裏側後方へ形成した傾斜前板部 2 を嵌め入れる（例えば図 8 参照）。該傾斜前板部 2 は上記の如く、基板部 1 の前縁部 7 から裏側後方へ向けて形成してあるので、その後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 へ当接しながら降下する。同時に基板部 1 の前縁部 7 が内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接するが、基板部 1 の前縁部 7 には前端縁より突出した掛止用突起 8 があるため、内装化粧枠 12 の外側面 13 へは該掛止用突起 8 が当接する（例えば図 9 参照）。

【0026】

この際に基板部 1 が枠柱 10 の内表面 14 に沿って後退すれば、基板部 1 は枠柱 10 の内表面 14 に面当接することになるが、傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 に当接しているので、基板部 1 の後退が規制されており、後退できない。そのため、基板部 1 は掛止用突起 8 が内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接したまま、前部寄り部分が枠柱 10 の内表面 11 から少し浮き上がった状態になっている（例えば図 10 参照）。

【0027】

そこで作業者は、指で上記基板部 1 の浮き上がった部分を、枠柱 10 と内装化粧枠 12 との間隙 k の方向へ向けて押し込むだけでよい（例えば図 11 参照）。これにより、基板部 1 は枠柱 10 の内表面 14 へ面当接しようとするが、該基板部 1 は傾斜前板部 2 により後退が規制されると共に、該傾斜前板部 2 の反発力を受けているから、基板部 1 の前縁部 7 の掛止用突起 8 は内装化粧枠 12 の外側面 13 に少し食い込むことになる。同時に、押し込まれた基板部 1 自体の復元力も加わって、食い込みがなされている。これで、枠柱 10 の内側表面 14 に密着状となると共に、基板部 1 の浮き上がりも防止され、この状態で本取付け用具 A は仮止めされたことになる。

【0028】

その後の作業は、基板部 1 の切り起し部 5 の取付け用丸孔 6 から、内装化粧枠 12 の外側面 13 へ向けてネジ釘 15 を螺装し、かつ基板部 1 の取付け用丸孔 3 から枠柱 10 の内表面へ向けて釘 16 を打ち込んで本固定する（例えば図 12 参照）のは、従前通りである。

【0029】

また上記掛止用突起 8 が、内装化粧枠 12 の外側面 13 に掛止されていることで、ネジ釘 15 を基板部 1 の切り起し部 5 の取付け用丸孔 6 から内装化粧枠 12 の外側面 13 へ向けて螺装した際に、基板部 1 の前部寄りが間隙 k 内に入り込んで大きく沈んでしまうのを阻

止する役目を発揮している。そして後は、石膏ボード 19 を張り付けることは従前通りである（例えば図 13 参照）。

【0030】

b) 枠柱 10 と内装化粧枠 12 との間隙 k が大きくて（例えば図 14 参照）、傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 に当接せず、或いは基板部 1 または傾斜前板部 2 の掛止用突起 8 が、内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接しないような場合にも対応することができる。

【0031】

即ち、傾斜前板部 2 を指で押さえて後方へより大きく屈曲させればよい（例えば図 14 参照）。これで、上記図 7 の傾斜角 α が大きくなり、傾斜前板部 2 の後端部 9 と、内装化粧枠 12 の外側面 13 との距離が大きくなるので、上記と同様に傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 に当接し、かつ基板部 1 又は傾斜前板部 2 の掛止用突起 8 が内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接可能となる。なお逆に間隙 k が小さい場合には傾斜前板部 2 を前方へ押し、ほぼ直角状に屈曲させた状態で用いればよい（例えば図 15 参照）。

【0032】

c) 内装化粧枠の取付け用具が、仮止め作業中に位置ズレしたり脱落するようなことをなくせる。

上記の如く、本内装化粧枠の取付け用具 A の傾斜前板部 2 を上記間隙 k に嵌め入れ、枠柱 10 上で浮き上がった基板部 1 の一部を押し込むだけの作業で、直ちにかつ強固に仮止めができるので、従来のように仮止め作業中に取付け金具が位置ズレしたり、脱落することが防止できる。この面からも取付け作業の効率化を図ることができる。

【0033】

d) さらに、上記のように一旦仮止めした場合でも、もし取付け位置を変更したいなら、従来のものと異なり、容易・迅速に行うことも可能である。

【0034】

即ち、従来のように釘止めしてあると、一旦取り付けた後の取り外しは時間と手間を要した。これに対して本取付け用具は、基板部 1 の前縁部 7 の掛止用突起 8 が、内装化粧枠 12 の外側面 13 に食い込んで掛止されているものであるから、間隙 k から基板部 1 の裏面に指または工具を差し入れ、少し力を入れて基板部 1 を持ち上げるだけのワンタッチ作業でよい。これで、上記掛止用突起 8 は食い込みが外れてフリーになるから、間隙 k の所望の位置で上記と同様に傾斜前板部 2 を嵌め入れ、基板部 1 を表面側から指で間隙 k の方へ押し込めばよいだけである。

【0035】

e) また、上記窓用内装化粧枠の取付け用具 A の第 2 のものでは、上記で述べた作用・効果に加えて、次のような作用・効果を奏する。

【0036】

即ち、傾斜前板部 2 の腕片 20 は、基板部 1 の前縁部 7 より前方へ突出するように設けてある。そこで、窓用内装化粧枠の取付け作業時に、傾斜前板部 2 を枠柱 10 の内側面 11 と内装化粧枠 12 の外側面 13 との間隙 k に嵌め入れて押し下げた際に、上記間隙 k が広くても狭くてもその弾性により対応して前・後方向へスイングし、うまく間隙 k 内へ嵌め入れられる（例えば図 16、図 17、図 18 参照）。

【0037】

そして、該腕片 20 が前・後方への弾性を有することにより、その先端部 20a が内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接して掛止されるから、基板部 1 が弾性・復元力で上方へ浮き上がろうとする力が作用した場合にも、上記掛止用突起 8に加えて、該腕片 20 の先端部 20a が突っ張っていることで、基板部 1 が浮き上がることを阻止する効果が大きくなっている。

【0038】

しかもこの腕片 20 は、前・後方向へのスイング可能に弾性を持たせて形成してあることにより、傾斜前板部 2 を枠柱 10 の内側面 11 と内装化粧枠 12 の外側面 13 との間隙

kの大きい場合には、前方へスイングしてその先端部20aが内装化粧枠12の外側面13へ当接して掛止されるし、小さい場合にも腕片20はやや後方へスイングして先端部20aが内装化粧枠12の外側面13へ当接して掛止されるから、いずれの場合も基板部1の浮き上がりを阻止できる。

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】本発明に係る内装化粧枠の取付け用具の第1の実施例を示す斜視図である。

【図2】本発明に係る内装化粧枠の取付け用具の他の実施例を示す斜視図である。

【図3】本発明に係る内装化粧枠の取付け用具の別の実施例を示す平面図である。

【図4】本発明に係る内装化粧枠の取付け用具のさらに他の実施例を示す一斜視図である。

。

【図5】傾斜前板部の後端部を湾曲した支承用部を設けた実施例を示す正面図である。

【図6】本発明に係る内装化粧枠の取付け用具の使用状態例を示す正面図である。

【図7】図1で示したものの側面図である。

【図8】図1で示したものをを用いる場合に、その傾斜前板部を間隙に嵌め入れた状態を示す一部縦断側面図である。

【図9】図1で示したものをを用いた場合に、その傾斜前板部が間隙内で降下した状態を示す一部縦断側面図である。

【図10】図1で示したものをを用いた場合に、掛止用突起部が内装化粧枠の外側面に当接した状態を示す一部縦断側面図である。

【図11】図1で示したものをを用いた場合に、基板部を指で押圧して仮止め時の状態を示す一部縦断側面図である。

【図12】図1で示したものをを用いた場合に、ネジ止めした状態を示す一部縦断側面図である。

【図13】図1で示したものをを用いた場合に、ネジ止め後にその上から石膏ボードを張った状態の一部縦断側面図である。

【図14】図1で示したものを、間隙が大きい場合に用いた状態を示す一部縦断側面図である。

【図15】図1で示したものを、間隙の小さい場合に用いた状態を示す一部縦断側面図である。

【図16】図4で示したものをを用いた場合を示す一部縦断側面図である。

【図17】図4で示したものを、間隙の小さい場合に用いた状態を示す一部縦断側面図である。

【図18】図4で示したものを、間隙の大きい場合に用いた状態を示す一部縦断側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0040】

内装化粧枠取付け用具Aにおいて、弾性をもつ薄板材製で基板部1の前縁部7から裏面後方への傾斜前板部2を形成し、取付け作業時に窓枠用開口部の枠柱10と内装化粧枠12の間隙kに、その傾斜前板部2を嵌め入れて、枠柱10上で浮き上がった基板部1の一部を押し込むだけで、前端部7より突出した掛止用突起8が内装化粧枠12の外側面13に食い込み可能として、仮止めが行えるようにする。

【実施例1】

【0041】

図1は、本発明に係る内装化粧枠の取付け用具Aの実施例の1つを示す。

本窓用内装化粧枠の取付け用具Aは、薄板製ここでは外力が加わった際の弾力性・復元性のことを考慮して、厚さ0.5mmのステンレス鋼製としてあり、大別すれば、平面状の基板部1と、その前縁部7から裏側後方へ屈曲形成した傾斜前板部2とからなる。

【0042】

上記基板部1の大きさは、ここでは間隙kが20mm以下の場合を想定して、幅が約2

6 mm、前後長さ n が約 45 mm のものとしてあり、該基板部 1 には従来のものと同様に、複数個ここでは両側寄りに、前後方向へ 2 つずつ並んだ取付け用丸孔 4 と、前部にほぼ U 字状の切り欠き部 4 を有形成してある。また該基板部 1 には、取付け作業をした際に内装化粧枠 12 の外側面へ食い込み得る掛止用突起 8 を形成してあり、ここでは基板部 1 の前縁部 7 でその両側寄り位置に、前縁部 7 よりも前方へ約 2 mm 突出するように掛止用突起 8 を形成してある。

【0043】

そして上記傾斜前板部 2 は、上記の如く基板部 1 の前縁部 7 から裏面後方へ続けて屈曲形成してある。その大きさは、上記の如くここでは間隙 k が 20 mm 以下の場合を想定して、前後長さ n を約 25 mm のものとしてある。この前後長さ n は、取付け作業で基板部 1 の前端縁の掛止用突起 8 が内装化粧枠 12 の外側面 13 へ当接時に、該傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能となる長さである。なお、幅は約 20 mm としてある。

【0044】

そして、該傾斜前板部 2 が基板部 1 の裏側後方へ屈曲形成されている傾斜角 α （上記のように本発明では平面状板材を屈曲した角度をいう）は、ここでは直角よりも大きく、基板部 1 の前縁部 7 からの傾斜角 α を、ここでは約 120 度程度にまで屈曲して形成してある。約 20 度というのは、通常はこの程度の傾斜角 α が利用し易いとして設定したものである。

【0045】

上記傾斜角 α で不適当な場合、例えば該傾斜前板部 2 を間隙 k 内へ嵌め入れる際に嵌め入れ難い場合、嵌め入れても後端部 9 が枠柱 10 の外側面に当接しない場合、あるいは基板部 1 の前縁部 7 の突起 8 が、内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接しないような場合も起こり得る。

【0046】

その場合には、取付け作業前に該傾斜前板部 2 に例えば指で力を加えて、基板部 1 の裏側面 17 に、より近づいた角度にしておくように変更可能である。例えば、傾斜角 α が 150 度程度になるように曲げて使用すれば、傾斜前板部 2 の後端部 9 の位置が後方へ来ているから（図 13 参照）、間隙 k が大きい場合でも、傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能となる。

【0047】

上記いずれの場合も、傾斜前板部 2 の後端部 9 を間隙 k 内へ嵌め入れた際に、枠柱 10 の内側面 11 に沿って奥へ移動し易くすると共に、移動した基板部 1 を斜め下方から支承する支承用部 9a としてある。

【0048】

本内装化粧枠の取付け用具 A の製造は、ここでは上記薄いステンレス鋼板をプレス加工で平面状の外形と各孔 3, 6 を打ち抜いた後、同じくプレス加工で必要な屈曲・折り曲げを行うようにした。

【0049】

本内装化粧枠の取付け用具 A の使用状態は、上記発明の効果の項で説明したのと同様であって、窓枠用開口部の枠柱 10 と内装化粧枠 12 との間隙 k に、その傾斜前板部 2 を嵌め入れ、枠柱 10 上で浮き上がった基板部 1 の一部を押し込むだけの作業でよい。従来のような長孔に釘を仮打ちすることによる仮止め作業は必要なくなり、内装化粧枠 12 の取付け作業における仮止め作業を容易・迅速に行うことができる。詳細は上記実施例 1 で説明したのと同様であるから、重複をさけてここでは省略する。

【実施例 2】

【0050】

図 4、図 16、図 17、図 18 は、本内装化粧枠の取付け用具 A の他の実施例を示すものである。ここでも、薄板製で外力が加わった際の弾力性・復元性のことを考慮して、厚さ 0.5 mm のステンレス鋼製としてあり、その構成を大別すれば、平面状の基板部 1 と

、その前縁部 7 から裏側後方へ屈曲形成した傾斜前板部 2 とからなる点は上記実施例 1 と共通する。説明の重複を避けてここでは相違点を中心に説明する。

【0051】

この実施例でも、基板部 1 の前縁部 7 から裏面後方へ続けて、傾斜前板部 2 を屈曲形成してある。その大きさは上記と同様に、取付け作業時に基板部 1 の前端縁の掛止用突起 8 が内装化粧枠 12 の外側面 13 へ当接時に、該傾斜前板部 2 の後端部 9 が枠柱 10 の内側面 11 へ当接可能となる長さとしてある。

【0052】

そして、ここでの傾斜前板部 2 には、前後方向のほぼ中間位置の両側部寄りから切り起こして、長さ約 10 mm、幅約 2 mm で先端が約 1 mm の腕片 20 を、上記掛止用突起 8 と同様に前方へ突出するように形成してある。また該腕片 20 は、材質上から前・後方向へスイング可能な弾性を持たせて形成してある。

【0053】

この腕片 20 を設けたことによる作用・効果は、上記発明の効果の項の e) で説明したように、仮止めの作業時に、枠柱 10 と内装化粧枠 12 との間隙 k が大きくても、狭くても、傾斜前板部 2 を間隔 k 内へ嵌め入れる際に、その弾性により対応して前・後にスイングし、うまく間隔 k 内へ嵌め入れられる（上記図 16、図 17、図 18 参照）。

【0054】

そして、基板部 1 を指で押さえて仮止めした際に、前寄り部分が弾性・復元力で浮き上がろうとする力が作用した場合でも、この腕片 20 の先端部 20a が、内装化粧枠 12 の外側面 13 に当接して引っ掛かる（上記図 16、図 17、図 18 参照）。その結果、仮止め作業時に基板部 1 が浮き上がろうとしても、この腕片 20 の先端部 20a の突っ張りが、上方への浮き上がりをより効果的に阻止するから、仮止め作業をワンタッチ操作で一層効率的に行えるようになる。この場合、上記掛止用突起 8 の先端部が、上記窓用内装化粧枠 12 の外側面に接触しないように、上記腕片 20 及び上記傾斜前板部 2 の角度等を設定するのが好ましい。これにより、間隔 k 内への嵌め入れ作業が容易になる。

【0055】

なお、上記いずれの実施例でも掛止用突起 8 は、基板部 1 または傾斜前板部 2 に、基板部 1 の前縁部 7 よりも少し前方へ突出するように形成しておけばよい（例えば図 1、図 2、図 3 参照）。例えば、基板部 1 の前縁部 7 の両側寄りに一対を形成してもよいし（例えば図 1 参照）、一対ではなく複数対を形成してもよいし（例えば図 3 参照）。また傾斜前板部 2 の前縁寄り両側縁に一対を形成してもよいし（例えば図 2 参照）、さらに、図示は省略するが傾斜前板部 2 の上部寄り位置を前方へ切り起こして形成してもよい。

【0056】

上記各実施例で示した材質や寸法・角度等は例示であって、これに限定するものではない。枠柱 10 と内装化粧枠 12 との間隙 k が、通常よりも大きい場合に対応するために、本取付け用具 A の基板部 1 や傾斜前板部 2 を長くしたものを別途用意しておいてもよい。傾斜前板部 2 の後端部 9 を、屈曲状ではなく角部を削って丸みをもたせて支承部 9a としてもよい。図において、18 は窓枠サッシ、19 は石膏ボードを示す。

【産業上の利用可能性】

【0057】

壁の窓用開口部の枠柱 10 間に窓枠サッシの付く内装化粧枠 12 を設ける場合に、この内装化粧枠 12 を仮止めして固定する作業の効率化を図るために、本発明に係る内装化粧枠止め用具を用いる。

【符号の説明】

【0058】

A	化粧枠止め用具	11	内側面
1	基板部	12	内装化粧枠
2	傾斜前板部	13	外側面
3	丸孔	14	内側表面

- 4－切欠き部
- 5－切起こし部
- 6－丸孔
- 7－前縁部
- 8－掛止用突起
- 9－後端部
- 9 a－支承用部
- 1 0－枠柱
- 1 5－ネジ釘
- 1 6－釘
- 1 7－裏側面
- 1 8－窓枠サッシ
- 1 9－石膏ボード
- 2 0－腕片
- 2 0 a－先端部
- n－長さ
- k－間隙
- α －傾斜角